英文解釈 L01 第 15 講 it が受ける内容を確かめて読む

学習目標

- 指示の it・非人称 it・形式主語 it・形式目的語 it を、文中の役割と前後の内容から区別できる。
- 形式主語 it と後続の to 句・that 節、形式目的語 it と後続の to 句の対応を正確に捉えられる。
- it を機械的に「それ」と訳さず、指示対象・条件・時制・否定・確度を保った自然な日本語に訳せる。

概念と読み方

構文を読むときの記号

構文図では、V に下線を引いて動詞の範囲を示す。M は修飾語句などの役割を示し、必ず省略できるという意味ではない。同じ英文を 2 枚に分けた図は、文の外側の骨格と、句・節の内部構造という異なる見方を表す。矢印は明示された対応だけを示し、形式的な it と後置内容の対応は注記や括弧で示す。

解説

本講では、大きな句・節の働きを次の記号で表す。

- 〈　〉: 名詞の働きをするまとまり
- 〔　〕: 形容詞の働きをするまとまり
- (　): 副詞の働きをするまとまり

S は主語、V は述語動詞、O は目的語、C は補語、M は修飾語句を表す。

記号は英語の品詞ではなく、まとまり全体が文中で担う役割を示す。構造を説明する際には、必要なまとまりをその働きに合わせて囲む。

it を見つけても、すぐに「それ」と訳さない

解説

英文を読んでいると、同じ it でも「それ」と訳す場合と、日本語に直接訳さない場合がある。

例えば、前に登場したカメラを it で受けるなら、「それ」はカメラを指す。一方、天候を述べる It is raining.の it には、特定の物を表す「それ」がない。

さらに、It is easy to read this book.では、何が簡単なのかという内容が to read this book として後ろに置かれている。

この違いを見分けず、すべての it を「それ」と訳してしまうと、英文の意味を正しく組み立てられない。

ここで重要なのは、**it が何を指すかを探す前に、it が文の中でどの役割を担っているかを確認すること**である。

そのために、まず it が主語と目的語のどちらの位置にあるかを確認する。そのうえで、前後に指示対象があるか、後ろに内容を表すまとまりが続くかを、動詞や補語との意味関係と合わせて確かめる。

©ミライコーチング

1. 指示の it：前にある物や内容を受ける

指示の it

指示の it は、すでに話題に出ている物や内容などを受ける代名詞である。前後の文脈から、その it が何を指すかを確かめて読む。

解説

次の英文を考える。

I bought a new lamp. It is on my desk.

2 文目の It は、1 文目の a new lamp を受けている。そのため、「それは私の机の上にある」と訳せる。

ここでの it には、実際に指している対象がある。また、it が主語の位置にある場合だけでなく、動詞の目的語の位置に置かれる場合もある。

例えば、I bought a new lamp. I put it on my desk.なら、2 文目の it は put の目的語であり、同じランプを指す。

したがって、**it が目的語の位置にあるというだけでは、形式目的語とは判断できない。**

指示の it では、文脈中のどの物や内容を受けているかを確かめることが重要である。

I　bought 〈a new lamp〉. It　is　(on 〈my desk〉).
S　V　O　S　V　M

S “I” / 私
V “bought” / 買った
O “a new lamp” / 買った物
S “It” / 指示の it → O “a new lamp” / 先行文の a new lamp を指す。
V “is” / 状態を述べる
M “on my desk” / 場所 / ランプがある場所を表す。

I　bought 〈a new lamp〉. I　put　it　(on 〈my desk〉).
S　V　O　S　V　O　M

S “I” / 私
V “bought” / 買った
O “a new lamp” / 買った物
S “I” / 私
V “put” / 置いた
O “it” / 指示の it → O “a new lamp” / 先行文の a new lamp を指す。形式目的語ではない。
M “on my desk” / 置く場所 / put が必要とする場所の補足。M は省略可能という意味ではない。

2. 非人称 it：天候や時刻などを述べる

非人称 it

非人称 it は、天候や時刻などを述べる基本的な文で使われる it である。通常、特定の人物や物を指さない。

解説

次の 2 文を比較する。

It is raining.

It is six o'clock.

前者は「雨が降っている」、後者は「6 時だ」という意味である。どちらも、it を「それ」と訳す必要はない。

非人称 it は英文の主語の位置を占めているが、後ろに別の真主語を探すわけではない。天候や時刻について、文全体で一つの状態を表している。

そのため、「後ろに名詞や時刻の表現があるから形式主語だ」と判断してはいけない。文全体が何について述べているかを確認する。

It　is raining .
S　V

S “It” / 非人称 it / 天候を述べる主語。特定の物を指さず、後ろに真主語もない。
V “is raining” / 現在進行形 / is raining 全体で、雨が降っている状態を表す。

It　is　〈six o'clock〉.
S　V　C

S “It” / 非人称 it / 時刻を述べる主語。特定の物を指さず、形式主語でもない。
V “is” / be 動詞
C “six o'clock” / 時刻を表す補語 / 本教材では six o'clock を時刻表現の C として扱う。

3. 形式主語 it：本当の内容を後ろで受け取る

形式主語 it

形式主語 it は、主語の位置を形式的に占め、実際に主語に当たる内容を後ろの to 句や that 節で示す it である。

解説

次の英文を見る。

It is difficult to solve this problem.

主節の骨格は It（S）＋is（V）＋difficult（C）である。しかし、difficult が評価しているのは、漠然とした「それ」ではない。

評価されている内容は、後ろの〈to solve this problem〉である。

「この問題を解くことは難しい」と訳せば、何が難しいのかが明確になる。

また、形式主語 it の後ろには that 節が続く場合もある。

It is clear that the door is locked.

この文では、〈that the door is locked〉が「明らかだ」と述べられている内容である。

したがって、「ドアに鍵がかかっていることは明らかだ」と読める。

©ミライコーチング

形式主語では、it そのものを「それ」と訳そうとするのではなく、後ろにある主語の内容を見つけ、その内容と述語を結び付ける。

It　is　difficult　〈to solve 〈this problem〉〉.
S　V　C

S “It” / 形式主語 it / 後ろの to solve this problem が実際の主語に相当する内容を表す。
V “is” / be 動詞
C “difficult” / 難しさの評価 / 後ろの to 句が表す行為を評価する。

It　is　clear　〈that 〈the door〉 is locked〉.
S　V　C

S “It” / 形式主語 it / 後ろの that the door is locked が実際の主語に相当する内容を表す。
V “is” / be 動詞
C “clear” / 明らかという評価 / 後ろの that 節全体について述べる。ここでは主節の構造を示す。

It is clear 〈that 〈the door〉 is locked〉.
S　V

S “the door” / that 節内の主語 / ここでは that 節内部の構造だけを示す。that は内容をまとめる接続詞。
V “is locked” / that 節内の述語 / 受動形で、ここでは鍵がかかっている状態を述べる。誰がいつ施錠したかは断定できない。

4. 形式目的語 it：目的語の内容を後ろへ置く

解説

ここからは、形式主語の考え方を目的語の位置へ広げる。

次の英文を読む。

I found it helpful to take notes.

まず、文の中心を確認する。

I が主語（S）、found が動詞（V）、it が目的語（O）、helpful が目的格補語（C）である。

ここで、helpful という評価は何について述べられているのだろうか。

評価されているのは、後ろの〈to take notes〉、つまり「メモを取ること」である。

この it は、前に登場した物を指しているのではない。目的語の位置を形式的に占めており、実際に評価される内容は後ろに置かれている。

そのため、文全体は「私はメモを取ることが役に立つと感じた」と読める。

I　found　it　helpful　〈to take notes〉.
S　V　O　C

S “I” / 判断する人
V “found” / 判断を表す動詞
O “it” / 形式目的語 it / 後ろの to take notes が実際の目的語に相当する内容を表す。別々の二つの目的語ではない。
C “helpful” / 役立つという評価 / 後ろの to 句が表す行為についての評価。

©ミライコーチング

形式目的語 it

形式目的語 it は、目的語の位置を形式的に占め、実際の目的語に相当する内容を後ろに置く it である。

本講では、基本動詞＋it＋形容詞＋to 句の形を扱う。to 句が何についての評価なのかを表す。

ここは覚える

本講で扱う形式目的語の基本形は、次のとおりである。

S ＋ find / make ＋ it ＋ 形容詞 ＋ to 句

・find：主語が、to 句の内容について、形容詞が表す状態だと感じる・判断する。
・make：主語が、to 句の内容を形容詞の表す状態にする。

いずれも、it は目的語の位置にあり、後ろの to 句が実際の内容を示す。it と to 句を、別々の二つの目的語として数えるわけではない。

これは本講で扱う基本形であり、すべての形式目的語の構文を網羅したものではない。

5. it の役割と「内容の行き先」を結び付ける

解説

形式主語と形式目的語には共通点がある。どちらも、後ろにある内容を先に形式的な it で受ける点である。

ただし、it が占めている位置は異なる。

形式主語では it が S の位置にあり、後ろの to 句や that 節が主語に相当する内容を表す。

形式目的語では it が O の位置にあり、後ろの to 句が実際の目的語に相当する内容を表す。

同じ it でも、主語の位置に置かれているのか、動詞の後ろの目的語の位置に置かれているのかで、後続内容との結び付きが変わる。

一方、指示の it なら、前後の文脈から指示対象を探す。非人称 it なら、特定の指示対象や後続の真主語を無理に探さない。

つまり、**it の読み方は「それ」という日本語から決めるのではなく、it の文中での位置と、前後の内容との関係から決める**のである。

注意

後ろに to 句や that 節があるという理由だけで、直ちに形式的な it と決めてはいけない。it の位置、主節の動詞や補語の働き、後続内容との意味関係を合わせて確認する。

また、形式的な it には通常「それ」という訳語を当てる必要はないが、訳文全体の主語や評価内容まで省略してよいという意味ではない。

©ミライコーチング

例題

1

The old camera was in the drawer, but Saki could not find it when she wanted to take a picture.

語注：drawer「引き出し」

a. 構造確認

文中の it の役割を示せ。指示の it であれば、何を指しているかを示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

解答・解説

a. 構造確認の解答

it は**指示の it** であり、前に出てきた the old camera（その古いカメラ）を指す。

主節の後半では、Saki が主語（S）、could not find が述語（V）、it が目的語（O）である。

b. 全文和訳

直訳

その古いカメラは引き出しの中にあったが、サキは写真を撮りたかったときにそれを見つけることができなかった。

満点の訳

古いカメラは引き出しの中にあったが、サキは写真を撮りたかったとき、そのカメラを見つけられなかった。

解説

it の前には the old camera と the drawer という名詞がある。しかし、Saki could not find it の目的語として、後ろの「写真を撮りたい」という状況と自然につながるのは the old camera である。

後半の(when she wanted to take a picture)は、サキがカメラを探した場面の時を説明する副詞節である。

ここでは、it を「そのカメラ」と訳すと指示関係が明確になる。「それ」と訳しても指示対象が正確に伝わるならよい。

また、could not find は過去に見つけられなかったことを表す。単なる「見つけなかった」へ弱めず、「見つけられなかった」と訳す。

〈The old camera〉 was (in 〈the drawer〉), but Saki could not find it
S V M S V O

(when she wanted 〈to take 〈a picture〉〉).
M

S “The old camera” / 古いカメラ
V “was” / 過去の状態

M “in the drawer” / カメラの場所 / カメラの所在を表す。サキがその場所を知っていたとは述べていない。
S “Saki” / サキ
V “could not find” / 否定を含む述語 / could not find 全体で、見つけられなかったことを表す。
O “it” / 指示の it → S “The old camera” / 前半の The old camera を指す。形式目的語ではない。
M “when she wanted to take a picture” / 時を表す節 / サキが写真を撮りたかったとき。実際に撮ろうと試みたとは断定しない。

2

It was surprising that the small bookstore stayed open after the heavy storm last night.

語注：bookstore「書店」、storm「嵐」、stay open「営業を続ける・開いたままでいる」

a. 構造確認

文中の It の役割を示せ。後ろに対応する内容がある場合は、その範囲を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

解答・解説

a. 構造確認の解答

It は**形式主語**である。

後ろの〈that the small bookstore stayed open after the heavy storm last night〉が、実際に主語に相当する内容を表す名詞節である。

主節の骨格は It（S）＋was（V）＋surprising（C）である。

b. 全文和訳

直訳

昨夜の激しい嵐の後にその小さな書店が営業を続けていたことは、驚くべきことだった。

満点の訳

昨夜の激しい嵐の後も、その小さな書店が営業していたのは意外だった。

解説

surprising は「意外な・驚くべき」という評価を表す形容詞である。何が意外だったのかは、後ろの that 節に示されている。

that 節の内部では、the small bookstore が主語（S）、stayed が動詞（V）、open が補語（C）である。stayed open 全体で、書店が営業中の状態を保っていたことを述べている。

after the heavy storm last night は、営業が続いていた時の状況を説明している。

この文の It は、前の文にある物を「それ」と指すのではなく、後ろの that 節の内容に対応する形式主語である。後ろの that 節をひとまとまりの内容として捉え、それが意外だったという関係を日本語へ移す。

なお、was surprising は過去の評価であるため、「意外だ」と現在の評価に変えない。

©ミライコーチング

It was surprising 〈that 〈the small bookstore〉 stayed open (after 〈the heavy storm last night〉)〉.
S V C

S “It” / 形式主語 it / 後ろの that the small bookstore stayed open after the heavy storm last night が実際の主語に相当する内容を表す。
V “was” / 過去の be 動詞
C “surprising” / 驚きの評価 / 後ろの that 節全体を評価する。ここでは主節の構造を示す。

It was surprising 〈that 〈the small bookstore〉 stayed open (after 〈the heavy storm 〔last night〕〉)〉.
S V C M

S “the small bookstore” / that 節内の主語 / ここでは that 節の内部構造を示す。that 自体は内容をまとめる接続詞である。
V “stayed” / 状態の継続
C “open” / 営業中の状態 / stayed open 全体で、書店が営業中の状態を保っていたことを表す。
M “after the heavy storm last night” / 営業継続時の状況 / 昨夜の激しい嵐の後という時の状況。last night は嵐が起きた時を表す。

3

The students found it difficult to explain their answers clearly.

a. 構造確認

文中の it の役割を示せ。後ろに対応する内容がある場合は、その範囲を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

解答・解説

a. 構造確認の解答

it は**形式目的語**である。

後ろの〈to explain their answers clearly〉が、実際の目的語に相当する内容を表す。

主節の骨格は次のようになる。

- S：The students
- V：found
- O：it
- C：difficult

difficult は、後続の to 句が表す行為についての評価である。

b. 全文和訳

直訳

その生徒たちは、自分たちの答えを明確に説明することが難しいと感じた。

満点の訳

生徒たちは、自分たちの答えをはっきり説明するのは難しいと感じた。

©ミライコーチング

解説

まず、found の後ろに it があり、さらに difficult が続いていることに注目する。

find＋O＋C では、O について C のようだと判断する関係が成立する。この文では、it が O の位置にあり、その後ろの difficult が評価を示している。

そして、何が難しいのかは〈to explain their answers clearly〉で具体的に示されている。

したがって、形式目的語 it と後ろの to 句を結び付け、「答えを明確に説明することが難しいと感じた」と読む。

ここでは their を The students に対応させ、「自分たちの答え」と読むのが自然である。

また、found は過去形である。「難しいと感じる」と現在の状態に変えず、生徒たちがそう感じたという過去の判断を保つ。

形式主語の文では it が S の位置にあったが、この文では O の位置にある。この違いを、後ろの内容との対応を判断する根拠にする。

〈The students〉 found it difficult 〈to explain 〈their answers〉 clearly〉.
S V O C

S “The students” / 生徒たち
V “found” / 過去の判断
O “it” / 形式目的語 it / 後ろの to explain their answers clearly が実際の目的語に相当する内容を表す。二つの独立した O ではない。
C “difficult” / 難しいという評価 / 後続の to 句が表す行為についての評価。

演習問題

1

The blue envelope contained two tickets, but Naoki forgot to put it in his bag before leaving home.

語注：envelope「封筒」、contain「中に〜が入っている」

a. 構造確認

文中の it の役割を示せ。指示の it であれば、何を指しているかを示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

2

It was snowing heavily before the morning train arrived, so several passengers waited inside the station building.

語注：heavily「激しく」、passenger「乗客」、station building「駅舎」

a. 構造確認

文中の It の役割を示せ。後ろに対応する内容がある場合は、その範囲を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

3

It is important to read the instructions on the first page carefully before starting the test.

語注：instruction「指示・説明」

a. 構造確認

文中の It の役割を示せ。後ろに対応する内容がある場合は、その範囲を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

4

It is possible that the train will arrive late because of the heavy rain in the mountains.

語注：possible「あり得る・可能性がある」

a. 構造確認

文中の It の役割を示せ。後ろに対応する内容がある場合は、その範囲を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

5

The clear map made it easy to reach the museum from the station.

語注：reach「〜に着く・たどり着く」

a. 構造確認

文中の it の役割を示せ。後ろに対応する内容がある場合は、その範囲を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

6

If the instructions are unclear, students may find it difficult to finish the science project by Friday.

語注：unclear「不明確な・分かりにくい」、science project「理科の課題」

a. 構造確認

文中の it の役割を示せ。後ろに対応する内容がある場合は、その範囲を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

演習問題の解答・解説

1

The blue envelope contained two tickets, but Naoki forgot to put it in his bag before leaving home.

a. 構造確認の解答

it は**指示の it** であり、前半に登場した the blue envelope（その青い封筒）を指す。

後半の主節では、Naoki が主語、forgot が述語動詞である。

〈to put it in his bag before leaving home〉は、forgot の目的語となる内容を表す名詞的な to 句である。その内部で it は put の目的語として使われている。

b. 全文和訳

直訳

その青い封筒には 2 枚のチケットが入っていたが、直樹は家を出る前に、それを自分のかばんに入れることを忘れた。

満点の訳

青い封筒にはチケットが 2 枚入っていたが、直樹は家を出る前にその封筒をかばんに入れ忘れた。

解説

前半に the blue envelope と two tickets が登場しているが、tickets は複数形である。一方、it は単数の物を受ける形なので、ここでは the blue envelope を指している。

後半では、forgot の後ろに to put が続き、「入れることを忘れた」と読む。

it は put の目的語であり、実際にかばんへ入れるはずだった物を表す。したがって、形式目的語ではない。

(before leaving home)は、家を出る前という時を示す副詞のまとまりである。この時間関係を落とさず訳す。

また、forgot to put は「入れるのを忘れた」という意味である。「入れたことを忘れた」とすると、実際に入れたかどうかに関する意味が変わってしまう。

〈The blue envelope〉 contained 〈two tickets〉, but Naoki forgot
S V O S V

〈to put it (in 〈his bag〉) (before 〈leaving home〉)〉.
O

S “The blue envelope” / 青い封筒
V “contained” / 入っていた
O “two tickets” / 2 枚のチケット
S “Naoki” / 直樹
V “forgot” / 忘れた
O “to put it in his bag before leaving home” / 忘れた内容 / to put it in his bag before leaving home 全体が forgot の目的語。ここでは外側の構造を示す。

〈The blue envelope〉 contained 〈two tickets〉, but Naoki forgot 〈to put (V) it (O)

(in 〈his bag〉) (M) (before 〈leaving home〉)〉 (M).

V “put” / 入れる / to は不定詞標識。put が to 句内部の動詞である。
O “it” / 指示の it / 前半の The blue envelope を指す。two tickets は複数。forgot の目的語となる to 句内部の指示 O であり、形式目的語ではない。
M “in his bag” / 入れる場所 / 封筒を自分のかばんに入れるという場所の関係を表す。
M “before leaving home” / 家を出る前 / put の行為にかかる時間のまとまり。

2

It was snowing heavily before the morning train arrived, so several passengers waited inside the station building.

a. 構造確認の解答

It は**天候を表す非人称 it** である。

was snowing heavily が、激しく雪が降っていたという天候を表している。

It は前に登場した特定の物を指さず、後ろに真主語となる to 句や that 節もない。

b. 全文和訳

直訳

朝の列車が到着する前に、激しく雪が降っていたので、数人の乗客は駅舎の中で待った。

満点の訳

朝の列車が到着する前は雪が激しく降っていたため、何人かの乗客は駅舎の中で待っていた。

解説

It was snowing の中心は was snowing であり、過去のある時点で雪が降っている最中だったことを表す。

ここでの It は、天候表現に必要な主語の位置を占めている。特定の物を指す指示の it ではない。

(before the morning train arrived)は、雪が降っていた時の状況を説明する副詞節である。

so の後ろでは、several passengers が主語、waited が述語動詞となる。

so は前半を理由、後半を結果として結び付けている。そのため、雪が激しく降っていたことと、乗客が駅舎内で待っていたことの関係を自然に訳す。

なお、was snowing は過去進行形なので、「雪が降るだろう」という未来の予測にはしない。

It (S) was snowing (V) heavily (M) (before 〈the morning train〉 arrived) (M), so

〈several passengers〉 (S) waited (V) (inside 〈the station building〉) (M).

S “It” / 非人称 it / 天候を述べる主語。特定の物を指さず、後置の真主語もない。
V “was snowing” / 過去進行形 / was snowing 全体で、雪が降っていたことを表す。
M “heavily” / 雪の降り方
M “before the morning train arrived” / 時を表す節 / 朝の列車が到着する前。到着後に雪が止んだとは断定しない。

S “several passengers” / 数人の乗客
V “waited” / 過去の行動 / so は前半の降雪状況を原因、後半の乗客の待機を結果として結ぶ。
M “inside the station building” / 待っていた場所

3

It is important to read the instructions on the first page carefully before starting the test.

a. 構造確認の解答

It は**形式主語**である。

後ろの〈to read the instructions on the first page carefully before starting the test〉が、実際に主語に相当する内容を表す。

主節の骨格は It（S）＋is（V）＋important（C）である。

b. 全文和訳

直訳

試験を始める前に最初のページにある指示を注意深く読むことは重要である。

満点の訳

試験を始める前に、最初のページに書かれた指示を注意深く読むことが大切だ。

解説

It is important までを読むと、「何が重要なのか」がまだ具体的に示されていない。

後ろの to read 以下を確認すると、重要だと評価されている内容が、指示を注意深く読むことだと分かる。

to read の目的語は the instructions on the first page であり、on the first page は instructions の場所を説明している。

さらに、carefully は read を修飾し、どのように読むべきかを表している。

(before starting the test)は、指示を読む時を説明する副詞のまとまりである。

したがって、重要なのは単に「最初のページを見ること」ではなく、試験を始める前に指示を注意深く読むことである。

形式主語 It を「それ」と訳す必要はない。後ろの to 句を「〜すること」としてまとめ、その内容が重要だという関係を日本語に反映する。

It　is　important　〈to read 〈the instructions 〔on 〈the first page〉〕〉　carefully
S　V　C
(before 〈starting 〈the test〉〉)〉.

S “It” / 形式主語 it / 後ろの to read the instructions on the first page carefully before starting the test が実際の主語に相当する内容を表す。第二の S は置かない。
V “is” / be 動詞
C “important” / 重要という評価 / 後ろの to 句全体が評価される内容。ここでは主節の構造を示す。

4

It is possible that the train will arrive late because of the heavy rain in the mountains.

a. 構造確認の解答

It は**形式主語**である。

後ろの〈that the train will arrive late because of the heavy rain in the mountains〉が、実際に主語に相当する内容を表す。

主節では It が S、is が V、possible が C となる。

b. 全文和訳

直訳

山での激しい雨のために列車が遅れて到着することはあり得る。

満点の訳

山間部の大雨のため、列車が遅れて到着する可能性がある。

解説

possible は「あり得る・可能性がある」という意味を表す形容詞である。

何が起こり得るのかは、後ろの that 節で示されている。

that 節の内部では、the train が主語、will arrive が述語の中心となり、late が到着の仕方を説明している。

ここでは(because of the heavy rain in the mountains)を that 節内の arrive late に結び付け、遅れて到着する原因を表すまとまりとして読む。possible が、雨による遅延を含む内容全体を可能性として述べている。because of の後ろには the heavy rain in the mountains という名詞句が続いている。

重要なのは、possible が表す確度を保つことである。

「大雨のため、列車は遅れて到着する」と断定すると、可能性の表現が失われてしまう。

that 節全体が possible による評価の対象であることを確認し、「〜する可能性がある」と訳す。

It (S) is (V) possible (C) 〈that 〈the train〉 will arrive late (because of 〈the heavy rain 〔in 〈the mountains〉〕〉)〉.

S “It” / 形式主語 it / 後ろの that the train will arrive late because of the heavy rain in the mountains が実際の主語に相当する内容を表す。
V “is” / be 動詞
C “possible” / 可能性の評価 / 雨による遅延を含む that 節全体について可能性を述べる。実際の遅延を断定しない。

It is possible 〈that 〈the train〉(S) will arrive(V) late(M) (because of 〈the heavy rain 〔in 〈the mountains〉〕〉)(M)〉.

S “the train” / that 節内の主語 / that は内容をまとめる接続詞であり、節内の S や O ではない。
V “will arrive” / 未来を表す述語 / will arrive 全体で到着することを表す。

M “late” / 到着の遅れ
M “because of the heavy rain in the mountains” / 遅延の原因 / that 節内の arrive late にかかり、山での大雨を遅れて到着する原因として示す。

5

The clear map made it easy to reach the museum from the station.

a. 構造確認の解答

it は**形式目的語**である。

後ろの〈to reach the museum from the station〉が、実際の目的語に相当する内容を表す。

主節の骨格は次のようになる。

- S：The clear map
- V：made
- O：it
- C：easy

b. 全文和訳

直訳

その分かりやすい地図は、駅から博物館にたどり着くことを容易にした。

満点の訳

その分かりやすい地図のおかげで、駅から博物館にたどり着きやすくなった。

解説

まず、made の後ろに it と easy が続いていることを確認する。

make＋O＋C では、O を C の状態にするという関係が成立する。

ただし、この文の it は地図や博物館を指す代名詞ではない。easy という評価が当てはまる内容は、後ろの to 句で示されている。

〈to reach the museum from the station〉は、駅から博物館にたどり着くという行為を表す。

したがって、The clear map がその行為を容易にしたと読む。

満点の訳では、made が表す原因と結果の関係を「地図のおかげで〜しやすくなった」と自然に表している。

なお、原文は博物館にたどり着きやすくなったことを述べているが、実際にたどり着いたとまでは述べていない。「博物館にたどり着いた」と断定しないことが重要である。

〈The clear map〉 made it easy 〈to reach 〈the museum〉 (from 〈the station〉)〉.
S V O C

S “The clear map” / 分かりやすい地図
V “made” / 容易にした / made は過去形。後続の内容を容易にしたことを表す。
O “it” / 形式目的語 it / 後ろの to reach the museum from the station が実際の目的語に相当する内容を表す。別々の二つの O ではない。
C “easy” / 容易さの評価 / 到達しやすくなったことを表す。実際に到達したとは断定しない。

©ミライコーチング

6

If the instructions are unclear, students may find it difficult to finish the science project by Friday.

a. 構造確認の解答

it は**形式目的語**である。

後ろの〈to finish the science project by Friday〉が、実際の目的語に相当する内容を表す。

主節では、students が主語（S）、may find が助動詞を含む述語（V）、it が目的語（O）、difficult が目的格補語（C）である。

b. 全文和訳

直訳

もし指示が不明確なら、生徒たちは金曜日までに理科の課題を終えることが難しいと感じるかもしれない。

満点の訳

指示が分かりにくい場合、生徒たちは金曜日までに理科の課題を終えるのが難しいと感じるかもしれない。

解説

文頭の(If the instructions are unclear)は条件を示す副詞節である。

主節は students may find it difficult to finish the science project by Friday であり、条件が成立した場合に何が起こり得るかを述べている。

主節の may find it difficult では、find の目的語の位置に it がある。後ろの difficult は、その目的語に対する評価を示している。

さらに、〈to finish the science project by Friday〉を読むと、難しいと感じる可能性があるのは、金曜日までに理科の課題を終えることだと分かる。

ここで by Friday は「金曜日までに」という期限を表す。単に「金曜日に終える」とすると、完了の期限という情報が変わってしまう。

また、may は可能性を表す助動詞であり、必ず難しいと感じると断定しているわけではない。

したがって、条件の if、可能性の may、期限を表す by Friday の 3 つの意味を保ちながら、形式目的語 it と後ろの to 句を対応させて訳す。この文の中心は「指示が分かりにくければ、課題を期限までに終えるのが難しいと感じるかもしれない」という関係である。

(If 〈the instructions〉 are unclear), students may find it difficult 〈to finish 〈the science project〉 (by Friday)〉.
M　S　V　O　C

M “If the instructions are unclear” / 条件を表す節 / 指示が分かりにくい場合という条件。後ろの主節にかかる。
S “students” / 生徒たち
V “may find” / 可能性を含む述語 / may find 全体で、難しいと感じる可能性を表す。断定ではない。
O “it” / 形式目的語 it / 後ろの to finish the science project by Friday が実際の目的語に相当する内容を表す。第二の O は置かない。
C “difficult” / 難しいという評価 / 金曜日までに課題を終えることについての評価。